

平成 25 年 6 月 4 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 橋高 公久
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
液化天然ガス (LNG) 輸送にかかる LNG 船の新規造船・保有および
定期傭船契約の締結について

国際石油開発帝石株式会社 (以下、当社) は、当社がオーストラリアで操業主体 (オペレーター) として開発作業を進めているイクシス LNG プロジェクトから生産される LNG の輸送について、このたび、当社完全子会社であるインペックス・ SHIPPING 株式会社 (以下、同社) を通じて次のとおり関係者間で合意いたしましたので、お知らせいたします。

1. 直江津LNG受入基地向けLNG船の新規造船・保有および定期傭船契約の締結について

当社は、このたび同社を通じて、川崎汽船株式会社 (以下、川崎汽船) と LNG 船 1 隻を共同で保有することを目的に、共同出資会社オーシャン・ブリーズ・LNG・トランスポート社 (以下、OBLT社) を設立し^(※1)、三菱重工業株式会社との間で造船契約を締結しました。

さらに、当社は、本プロジェクトから生産される LNG のうち自社引き取り分の LNG 年間 90 万トン を現在当社が新潟県上越市に建設中の直江津 LNG 受入基地に輸送するための定期傭船契約を、OBLT 社との間で締結致しました。

(※1) 同社および川崎汽船と LNG 船の共同保有 (同社 : 30%、川崎汽船 : 70%) を目的に、共同出資会社 OBLT 社を 2013 年 4 月 4 日付設立



「さやえんどう」型の船形 (イメージ)

直江津LNG受入基地向けに新造されるLNG船は、タンク容量約 155,300 立方メートルと大型タイプであり、4 基あるモス方式球形タンクを船体と一体構造のカバーで覆う「さやえんどう」^(※2) 型の船型を採用しております。これにより、船全体の強度を確保しながら軽量化をはかるとともに、航行中の風圧による抵抗を大幅に軽減するものです。また、主機関には蒸気を再度加熱利用する新型蒸気タービン機関を採用しており、従来船と比べ単位積荷あたり 20%以上の燃費低減を実現し、二酸化炭素排出量の抑制と輸送コストの低減が期待されます。このLNG船は三菱重工業株式会社の長崎造船所にて建造され、イクシスLNGプロジェクトからの生産開始が予定されている 2016 年末までに就航が予定されています。

^(※2) 三菱重工業株式会社の最新型LNG船の呼称

2. 台湾CPC向けLNG船の定期傭船契約について

イクシスLNGプロジェクトから生産されるLNGのうちLNG売買契約を締結している台湾のCPC Corporation, Taiwan^(※3) 向けLNG年間 175 万トンの輸送を目的に、当社は、同じくインペックス・ SHIPPING株式会社を通じて、イクシスLNGプロジェクトパートナーであるトータル社子会社とともに共同出資会社アイティール・マリーン・トランスポート社を設立し^(※4)、川崎汽船との間でLNG船の定期傭船契約を締結いたしました。

なお、川崎汽船はこの台湾 CPC 向けの LNG 船 1 隻(タンク容量約 182,000 立方メートル)を川崎重工業株式会社の坂出工場にて新造し、2016 年末までに就航させる予定です。この船はモス方式 LNG 船では世界で初めて(ガスと油の両方を燃料とするディーゼルエンジンによる)電気推進方式を採用しており燃費性能において優れております。またモス方式 LNG 船では世界最大の船型です。

^(※3) CPC Corporation, TaiwanとのLNG売買契約の締結について、当社は平成 24 年 1 月 10 日にプレスリリースを行っています(<http://www.inpex.co.jp/news/pdf/2012/20120110-a.pdf>)

^(※4) 同社およびトータル社子会社との間で共同出資会社アイティール・マリーン・トランスポート社(同社：68.77%、トータル社子会社：31.23%)を 2013 年 5 月 8 日付設立

この度の直江津 LNG 受入基地向け LNG 船の新規造船・保有および定期傭船契約の締結、CPC 向け LNG 船の定期傭船契約の締結によって、イクシス LNG プロジェクトから生産される LNG の輸送体制が確実なものとなるとともに、当社が INPEX 中長期ビジョンで当社成長目標のひとつとして掲げた海外の天然ガス資産と国内の LNG 受入基地、天然ガスパイプラインとの結合によるグローバルな「ガスサプライチェーンの強化」に貢献することが期待されます。

今後も当社は、イクシスLNGプロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府および北部準州政府等のオーストラリア政府関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進して参る所存です。

以上

イクシスLNGプロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター）としてトータル社、東京ガス、大阪ガス、中部電力および東邦ガスとともに、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設するガス液化プラントにて液化し、年間840万トンのLNG（液化天然ガス）および年間160万トンのLPG（液化石油ガス）として生産・出荷するとともに、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO：Floating Production, Storage and Offloading）等から日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する大規模なLNGプロジェクトです。

当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に本プロジェクト最終投資決定を行いました。現在、2016年末までに生産を開始すべく順次開発作業を実施中です。